学校教育実践学研究，2009，第15巻，39－48頁

模擬授業を複数回実施することの効果に関する事例的研究
－ソフトバレーボールを教材として－

村　井　　潤*・松　田　泰　定・木　原　成一郎
（2008年12月1日受理）

A Case Study on the Effect of the Consecutive Trial Teachings: Use of Soft Volley Ball as Teaching Contents

Jun MURAI, Yasusada MATSUDA and Seiichiro KIHARA

Abstract. This study aims to consider following two points through the trial teachings in "Teaching Contents of Elementary Physical Education" in Hiroshima University of Elementary School Teacher Education Program. One is to consider effect of planning and practicing consecutive trial teachings. The other is to consider students' understanding of motor skills and teaching technique through the consecutive trial teachings. The results are summarized as follows. 1. Students realized that their practicing were improving. 2. Consecutive trial teachings gave students consciousness to relate first trial teaching to second trial teaching. In addition, they gave students effect to reflect on their trial teachings. 3. Students' consciousness of problems to be solved at first trial teaching is different from that at second trial teaching because of teaching contents and teaching skills.

1．研究の目的

近年，教員養成段階の体育科目において，模擬授業が行われ，その効果や意義に関して検討されるようになってきた。

長谷川ら（2003）は筑波大学における体育教師教育カリキュラムにおいて，教育実習前の模擬授業を取り扱う科目の成果の検討を行った。その結果，組織的観察法による授業分析から，学生は学習指導場面やマネジメント場面は授業を通して縮小し，運動学習場面を十分に確保するようになったとした。さらに，教師の相互作用行動についても，授業を通して改善したとした。また，福ヶ迫ら（2007）は小学校教員養成課程の教育実習後の体育科目において実施した模擬授業の効果を検討した。その結果，模擬授業を3時間実施した教師役の学生は自らの模擬授業を省察し，改善すべき課題に気づき，またそれを改善していくことに効果があるとした。

ところで，広島大学初等教育教員養成コースにおいても，「小学校教育実習Ⅰ」の前に選択科目である「体育科学習材講義」と必修科目の「初等体育科教育法Ⅰ」において模擬授業が行われている。

木原ら（2007）によれば，必修科目である「初等体育科教育法Ⅰ」では，「体育科で学ぶ側から教える側への意識の転換」や「体育授業の何を観察するのかの視点の理解」，体育科の「理論的内容の理解の促進」を主な目的として行われている。それに加えて，前半の模擬授業という体験と後半の理論の講義を通して体育授業を指導する際の問題に気づかせようとしている。すなわち「初等体育科教育法Ⅰ」の模擬授業は，体育の授業を観察する視点を身につけることなどが目的であり，運動技能の理解や運動指導の知識を身につけることを直接の目的としていないのである。

それに対して，松田ら（2008）によれば，本研究の対象とする選択科目の「体育科学習材講義」では，「体育科における実践的指導力の基礎をなすと考えられる運動指導に関する初歩的な内容・方法についての知識を中心に体育指導に対する理解を深めること」を目標として行われている。す

*広島大学大学院教育学研究科博士課程後期

なわち，「体育科学習材講義」の模擬授業では，取り扱う教材と実際の運動指導の場面における教授技術を関連付けて理解することを目的としているのである。

このように，「初等体育科教育法Ⅰ」と「体育科学習材講義」では共に模擬授業が行われているが，その目的は異なったものとなっている。

ところで，「小学校教育実習Ⅰ」では，学生は一単位時間の授業を計画，実施するだけではなく，単元もしくはある程度のまとまりをもった授業時間数を計画することが求められる。それには，運動の技術や教材を系統的にとらえ，それらをどのように構成して授業を展開するかを考える必要があると思われる。それにもかかわらず，小学校教員養成において教育実習前に同一の実施者が複数回連続して模擬授業を実施し，運動指導に関する知識を理解する大学の授業の実践報告は，管見の限り見られない。

そこで，本研究では教育実習前の体育科目で，同一の学生が2時間連続の授業を計画，実施することの効果と，2時間の模擬授業を通して模擬授業を実施した学生が教材と教授技術の知識を関連させながら理解していく実態を考察することを目的とした。

2．研究方法

2-1．対象授業の概要と対象者

本研究の対象は，2007年度後期に学部2年生を対象として開講した「体育科学習材講義」である。この授業は，火曜日と水曜日に行われ，学生はどちらかの曜日を選択して受講した。なお，本授業ではマット運動とソフトバレーボールを教材とした。授業の展開は，最初にマット運動を8回（うち模擬授業4回）行い，次にソフトバレーボールを3回（うち模擬授業2回）行った。受講生は7から8人の班を作り，5つの班を1つのグループとし，2つのグループを作った。ひとつの班がいずれかの種目の模擬授業を行った。

その中で，ソフトバレーボールの模擬授業を分析の対象とした。ソフトバレーボールでは，まず，大学教員がボール慣れの運動や試しのゲームを指導した。試しのゲームでは，場の準備の仕方の確認や，ルールの確認を行った。その後，1グループあたり北体育館の半面を使用し模擬授業を行わせた。ソフトバレーボールの模擬授業は，同一のグループによって2時間の授業として構成され，2週にわたって実施させた。実施したソフトバレーボールの指導案の一例を表1，表2に示す。

2-2．模擬授業の展開

毎授業の展開は，まず，指導者班に担当する教材を用いて模擬授業を行わせた。模擬授業は，それぞれの場ごとに一つの班が指導者班として模擬授業を行い，その他の班は学習者班として模擬授業に参加した。大学教員と大学院生がそれぞれの場を観察したが，特に危険と判断する場合を除き，すべて指導者班に指導を行わせた。なお，ボールやマット等の教具も，すべて指導者班に準備させた。また，模擬授業は大学生を対象として行われ，学習者班が小学生を演じてはいない。

次に，模擬授業を行った後，気づきカードを配布し，模擬授業に関して気づいたことなどを記述させた。気づきカードの設問を表3に示す。そして，気づきカードに記入した内容をもとに，それぞれの場において反省会を行った。反省会では指導者班と学習者班に気づき等を発表させ意見交換を行わせたあと，大学教員とティーチングアシスタント（以下TA）である大学院生が助言やまとめを行った。

2-3．分析の対象

反省会の後，気づきカードを回収し指導者班に渡した。指導者班にはまず，自分たちの班の反省をまとめさせ，次に学習者班の気づきカードを反省シートにまとめさせ，提出させた。この反省シートを分析の対象とした。反省シートを表4に示す。

反省シートの3つの観点のうち，「A．模擬授業直後の指導者班の反省」と「B．生徒班からの質問や意見」を分析の対象とした。「C．最終のまとめ」では主に改善点が示されているが，「A．模擬授業直後の指導者班の反省」と「B．生徒班からの質問や意見」においてもすでに改善点が示されており，内容が重複すると考えたため分析の対象としなかった。

2-4．反省シートの分析方法

反省シートは火曜日と水曜日の授業のものがある。しかしながら，水曜日の反省シートは一部欠

表1　1回目の模擬授業の指導案の一例

時間	子どもの学習活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
10分	1．全体の流れの説明 2．準備体操	1．ホワイトボードの前に集合させ，2回分の授業の流れ，今日の活動内容，今日の目標等の説明をする。 2．担当教員の指示に従って，準備体操を行う。	○声が聞こえるか確認する。 ○しっかり体を温める。 ○運動ごとに名前を言う。
15分	3．個人練習 ① 個人練習の説明 ② 個人練習	3．作戦用紙に関する説明，安全面の注意をする。 ○オーバーハンドパス ・もぐり込みキャッチ：オーバーハンドパスの手の形を覚える。 ・直上トス：オーバーハンドパスの技能を習得する。 ○アンダーハンドパス ・駆け込みアンダー：アンダーハンドパスの技能を習得する。 ○チーム練習 ・円陣：カバーの姿勢や声出しを意識させる。	○すばやく集合するよう声かけをする。 ○パスの基本を確認し，試合での動きを意識させる。 ○各班の担当者も指示する。 ○時間の指示もする。 ○安全面に気をつける。
12分	4．準備，ゲームの説明 5．場の設定 6．ゲーム	4．準備方法やルール，対戦カード，安全面について説明する。 5．協力してテキパキと準備するよう指示する。 6．ゲームは5分間で行う。審判は指導グループが行う。	○準備を補助する。 ○反則した場合プレーを止める。 ○安全面に気をつける。
	7．作戦用紙の記入 8．片付け 9．整理体操 10．まとめ	7．作戦用紙を配布，説明し，記入してもらう。 8．協力してテキパキと動くよう指示する。 9．担当教員の指示に従って整理体操を行う。 10．今日の活動の総括をし，次回の授業へのつながりを説明する。	○しっかり体をほぐす。 ○次回へのつながりを意識させる。

表2　2回目の模擬授業の指導案の一例

時間	子どもの学習活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
5〜10分	1．全体の流れを説明 2．準備体操	1．ホワイトボードの前に集合させ，前回の振り返り，今日の活動内容，今日の目標等の説明をする。 2．担当教員の指示に従って準備体操を行う。	○声の確認をする ○しっかり体を温める ○どこを意識するかを伝える。 ○授業前に場の設定をしておく。
10分	3．グループ練習 ① 練習の説明 ② グループ練習	3．練習方法や安全面についての指導をする。 A．三段攻撃：コート内で三段攻撃の練習をする。 ローテーションで全員が全ポジションを経験する。 B．対人パス：コート外で2人組での退陣パスをする。 2班がAを行っている間，残りの2班がBを行う。途中で交代する。	○試合での動きを意識させる。 ○各班の担当番も指示する。 ○時間を指示する。 ○安全面に十分注意する。
20〜25分	4．ゲーム ① ゲームの説明 ② ゲーム ③ 作戦タイム	4．① ルールや対戦カード，作戦タイムについて説明する。安全についても注意する。 ② ゲームは5分間で行う。審判は指導グループが行う。 ③ 各試合の前に1分間の作戦タイムを設ける。このとき，先週書いた作戦カードを配る。全試合終了後には今日のふりかえりを記入してもらう。	○反則した場合にプレーを止める。 ○安全面に気をつける。 ○前時の反省をいかすことを意識させる。 ○時間を設定しておく。
5〜10分	5．片付け 6．整理体操 7．まとめ	5．協力してテキパキと動くよう指示する。 6．担当教員の指示に従って整理体操を行う。 7．今日の活動のまとめをする。	○しっかり体をほぐす。

表3　気づきカードの設問

模擬授業について以下の点等を含めて，授業に関する気づきを記入してください。
1）学習活動に必要な用具や教材・教具が事前に準備されていたか。
2）学習活動の手続き（運動の仕方や運動の回数など）が具体的にはっきりと計画されていたり，説明・指示されていたか。
3）安全の確保に配慮して授業が進められるように計画されたり，指示されていたか。
4）その他，授業での気づきを書いてください。

表4　反省シートの内容

	A. 模擬授業直後の指導者班の反省	B. 生徒班からの質問や意見	C. 最終のまとめ
1. 学習活動に必要な用具や教材・教具の準備			
2. 学習の手続き（運動の仕方や回数）の計画，説明・指示の具体性			
3. 安全への配慮			
4. その他			

損していたため，分析の対象から除外した。

資料の分析は，川喜田（1967）の提案するKJ法を用いて分類し，カテゴリー表を作成した。分類に際し，反省シートはすべて箇条書きで記述されていたため，ひとつの文章をひとつの意味分節として分類することとした。KJ法による分類及びカテゴリー表の作成は，授業を指導した，教員養成に35年間従事した大学教員とTAの大学院生の計2名で行った。

なお，KJ法による分類に際し，指導者班と学習者班の区別は行わなかった。反省シートは指導者班が授業後に記述している。したがって「A. 模擬授業直後の指導者班の反省」は，反省会における大学教員やTAによる指導，学習者班からの意見の影響を受けて記述した反省の内容であると考えられる。また，「B. 生徒班からの質問や意見」は，指導者班が学習者班の気づきシートの内容をすべて記述しているわけではない。つまり，指導者班の受講生はすでに獲得している体育の授業のイメージや大学教員及びTAの指導等によって記述する内容を取捨選択していると考えられる。

よって，反省シートの「A. 模擬授業直後の指導者班の反省」と「B. 生徒班からの質問や意見」から別々に模擬授業の効果や体育の授業にかかわる知識の理解を検討するよりも，自らが観察した模擬授業の情報と，大学教員及びTAの指導，学習者班の気づきカードをもとにして模擬授業を反省した内容から，総合的に検討した方が，「体育科学習材講義」の授業において学んだ内容として妥当性が高いと考えた。よって，KJ法を行う際に「A. 模擬授業直後の指導者班の反省」と「B. 生徒班からの質問や意見」の記述を区別しなかった。

資料の分類結果について，まず，すべての記述の分類結果から，ソフトバレーボールの模擬授業で指導者班が反省し記述した内容を検討した。次に，作成したカテゴリーを構成する記述を1回目と2回目の記述に分け，各カテゴリーが1回目と2回目の記述のどちらによって構成されているのか検討した。

次に，カテゴリーを形成する記述が，肯定的に記述されたものか，否定的に記述されたものかを区別して集計し，指導者班が自らの実践について肯定的に受け止めたか否定的に受け止めたのかを検討した。なお，肯定的な記述とは，「―― ができていた」「―― がよかった」などの記述である。それに対して，否定的な記述とは「―― ができていなかった。」「―― がよくなかった。」「―― はこう改善すべきだ」といった記述である。肯定的か否定的かを区別することができなかったものは除外し，ひとつの記述の中に肯定的な記述と否定的な記述が混在している場合には両者に集計した。

3. 結　果

3-1. ソフトバレーボールの模擬授業を反省する観点

KJ法によって，1回目と2回目のすべての記述を分類した結果，「1. 授業の雰囲気」「2. 臨機応変」「3. 授業の構成」「4. 授業の管理」「5. 授業評価」という5つの大カテゴリーが出現した。これらの下位には22個の中カテゴリー，26個の小カテゴリーが出現した。表5にカテゴリー名とそのカテゴリーを形成する学生の具体的記述を示す。また，図1に表5をもとに作成した概念図を示す。

まず「1. 授業の雰囲気」は声掛けや教材の特性によって授業の雰囲気が変化することや，授業に山場となるようなメリハリが必要であることに関する記述からなる大カテゴリーである。次に「2. 臨機応変」は授業時間の過不足や欠席者によってグループの人数に不具合が生じた際に柔軟に対応することに関する記述からなる大カテゴリーである。さらに「3. 授業の構成」は1回の授業や2回の連続した授業の流れや技術指導の内容

表5　概念図を構成する記述の具体例

1 授業の雰囲気	1-1 声かけの効果	指導班の声掛けや声援が励みになった。	
	1-2 教材の特性	「バレーボール」という教材に助けられた。	
	1-3 授業のメリハリ	全体的にメリハリがなかった。	
	1-4 準備運動による雰囲気作り	準備体操で明るい雰囲気がつくれた。	
2 臨機応変	2-1 時間調整	時間内に授業を終われた。(ゲームの時間やランニングの時間を削ったりして上手く調整できた)	
	2-2 人数調整	人数調整が早めにできてよかった。	
3 授業の構成	3-1 2回の授業のつながり	3-1-1 授業の目標	目標が前回の目標を発展させたものになっていたのでよかった。
		3-1-2 次時を想定した作戦カード	次回の授業も想定して，作戦カードが配布できた。
		3-1-3 作戦カードの朱書き	前時の作戦カードに指導グループからのアドバイスやコメントを入れることで，前時とのつながりを意識させることができた。
		3-1-4 3-2-1 2回の授業の流れ	2回分の授業の流れがしっかり示されていた。
	3-2 授業の流れ	3-2-1 1回の授業の流れ	流れが書かれていて見通しがもてた。
	3-4 技術指導の構成	3-4-1 連係プレー	三段攻撃を意識した練習をもっと取り入れてほしかった。
		3-4-2 個人スキル	基本技術の指導は？
		3-4-3 指導の仕方	三段攻撃と対人パスを平行して行ったのだが，指導グループが三段攻撃ばかり見ていて，対人パスの練習を見れていなかった。
		3-4-4 グループ練習の効果	壁側に向かってアタック練習をしたのがよかった。
	3-5 ゲームの構成	3-5-1 審判・ルールの影響	審判が前回よりも厳しくなっていたのでよかったが，タッチネットが頻繁にとられていたので三段攻撃に思い切って挑戦できなかった。
		3-5-2 明確なルール	ルールにもあいまいな点があった。
		3-5-3 ルールの説明	ルールの説明がポイントをつかんでいて，手短にできた。
		3-5-4 特別なルール	やる気も出るし楽しかったので特別ルールがよかった。
		3-5-5 笛の使い方	ホイッスルが効果的だった。
		3-5-6 明確なジャッジ	反則の基準があいまいだった。
	3-6 学習の評価	生徒側がゲームで三段攻撃を意識してくれて，練習の成果が見られた。	
	3-7 準備運動の内容	ランニングが少ない。(体が温まらない)	
	3-8 授業のまとめ	まとめ部分で，連係プレーからチームプレイの大切さの関係づけが上手に説明されていた。	
4 授業の管理	4-1 時間の管理	4-1-1 時間の配分	移動時間を考えておらず，時間がおしてしまった。
		4-1-2 作戦カードの配布	ワークシートを配るタイミング悪かった。
		4-1-3 試合の開始の仕方	試合の始まりがあいまいになってしまった。
	4-2 安全管理	4-2-1 服装品	靴をはいていない人への指示をしなかった。
		4-2-2 パスの向き	対人パスの方向が指示されていたのでよかった。
		4-2-3 ネットの影響	基本練習の前にネットを立てていて，他班との接触がさけられた。
		4-2-4 不要なボール	不要なボールや転がっているボールを回収していたのがよかった。
		4-2-5 場の管理	パスの練習場所の指示があってよかった。
	4-3 教具の準備	4-3-1 ネットの設営	ネットの高さ(下から7番目の穴に統一)を最初に言ってほしかった。
		4-3-2 掲示物	授業の流れとともに掲示物を展開していて効果的だった。
		4-3-3 ボールの準備	ボールに空気を入れておいてほしかった。
	4-4 片付けの仕方	後片付けが一班まかせになってしまった。	
	4-5 見学者への配慮	前回欠席した人，見学者に対してのフォローが必要だったと思う。	
5 授業評価	5-1 指導班の打ち合わせ	細かい打ち合わせをもう少ししてて欲しかった。	
	5-2 声かけの内容	声出しがしっかりできた。	
	5-3 声の大きさ	声が小さい。	
	5-4 示　範	実演の練習不足だったので，ちゃんと見本を示せなかった。(事前に練習すべきだった)	

をいかに構成するかということに関する大カテゴリーである。「4．授業の管理」は授業中の各種活動にかかる時間や活動する際の安全，授業で使用する用具や見学者を管理することに関する記述からなる大カテゴリーである。そして「5．授業評価」は指導者班の班員同士の話し合いや声掛けの内容，声の大きさといった，指導者班の学生の教師としての振る舞い方の良しあしを判断する記述からなる大カテゴリーである。

図1に示した全体の概念図のカテゴリーを構成する記述を，1回目の記述と2回目の記述にわけ，各カテゴリーが1回目の記述によって構成されるのか2回目の記述によって構成されているのかを検討した。すると，5つの大カテゴリーは1回目と2回目の双方の記述によって構成されていた。ただし，中，小カテゴリーには相違がみられた。検討の結果を図2に示す。

1回目の記述が構成しないカテゴリーについて，中カテゴリーでは「1-1. 声かけの効果」「1-4. 準備運動による雰囲気作り」「2-1. 時間調整」「3-8. 授業のまとめ」「4-5. 見学者への配慮」があった。また，小カテゴリーでは「3-4-1. 連係プレー」「3-4-3. 指導の仕方」「3-4-4. グループ練習の効果」「3-5-1. 審判・ルールの影響」「3-5-4. 特別なルール」「4-1-3. 試合の開始の仕方」「4-2-4. 不要なボール」「4-2-5. 場の管理」があった。

2回目の記述が構成しないカテゴリーは，中カテゴリーでは「1-2. 教材の特性」「2-2. 人数調整」「4-4. 片付けの仕方」「5-1. 指導班の打ち合わせ」があった。また，小カテゴリーでは「3-1-2. 次時

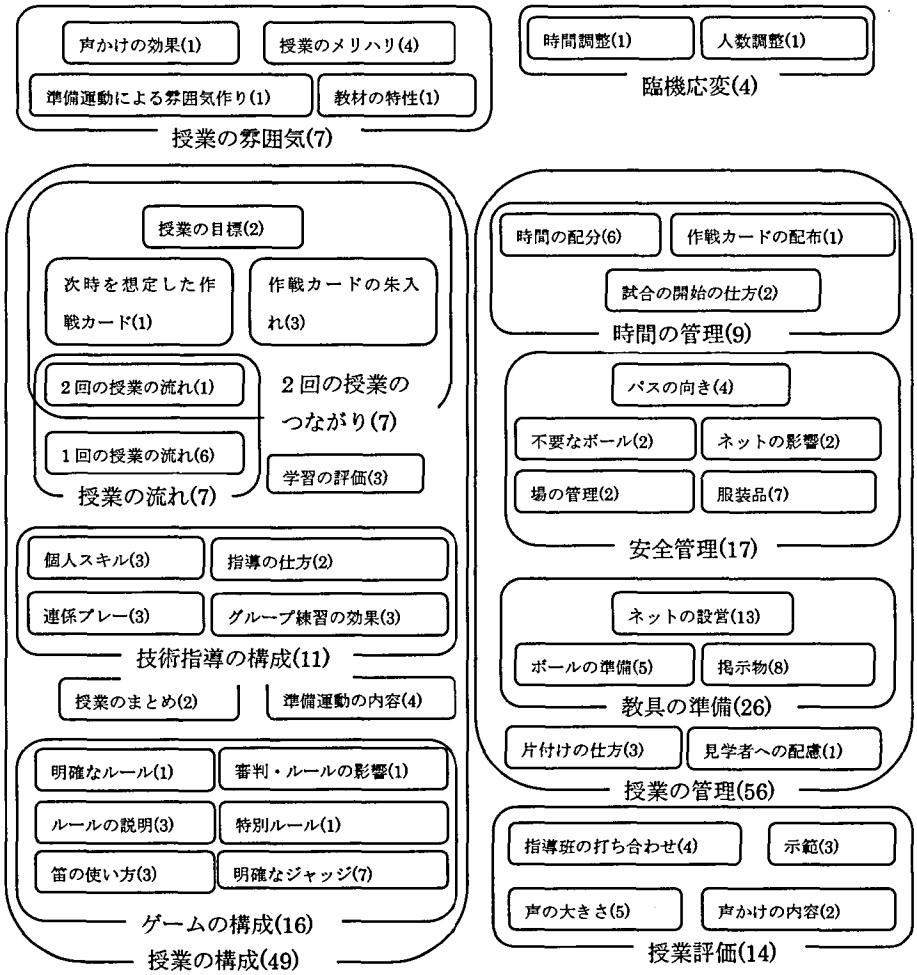


図1　全体の概念図

を想定した作戦カード」「3-1-4, 3-2-1. 2回の授業の流れ」「3-4-2. 個人スキル」「4-1-2. 作戦カードの配布」「3-5-2. 明確なルール」があった。

3-2. カテゴリーを構成する記述の内容について

カテゴリーを構成する記述について，内容が肯定的であるか否定的であるかを判定し，1回目の記述と2回目の記述を区別して集計した。その結果，1回目の記述では否定的な記述が多く，2回目の記述では肯定的な記述が多かった。集計の結果を表6に示す。ただし，肯定的か否定的か区別がつかないものについては除外した。

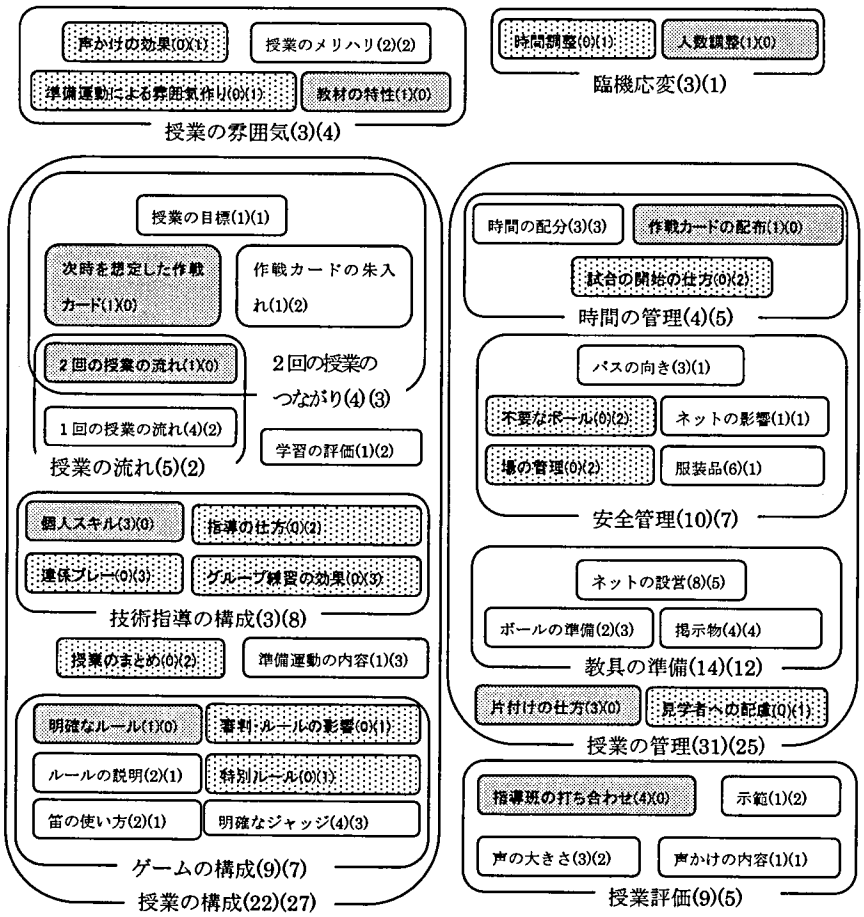
また，各大カテゴリーを構成する最小のカテゴリーは全体の概念図において41個，1回目の概念図において28個，2回目の概念図において32個であった。そして，それらが肯定的記述と否定的記述のどちらによって構成されているのかを集計した結果を表7に示す。ただし，肯定的記述と否定的記述をどちらも含んでいる場合には両方に集計した。なお，肯定的記述と否定的記述の両方

表6　カテゴリーを形成する記述の集計結果

	総数	肯定的記述数(%)	否定的記述数(%)
1回目	66	25 (37.8)	41 (62.1)
2回目	63	37 (58.7)	26 (41.2)

表7　肯定的・否定的記述によって構成されるカテゴリーの集計結果

	肯定的カテゴリー(%)	否定的カテゴリー(%)
1回目	14 (50.0)	22 (78.5)
2回目	27 (84.4)	17 (53.1)



1回目2回目ともに記述あり　1回目の記述なし　2回目の記述なし

＊カテゴリー名の後ろの数字は1回目の記述数と2回目の記述数を示す。

図2　各カテゴリーを構成する記述

を含んだカテゴリーは，1回目の概念図には8個，2回目の概念図には12個あった。

4．考　察

出現したカテゴリーについて，まず，模擬授業を2回連続して行うという，模擬授業の方法に関する観点と，「体育科学習材講義」の目標でもある，運動指導の知識の理解という観点から考察する。

まず，模擬授業を2回連続して行ったという方法に関する観点から考察する。表5から，学生は1回目の模擬授業を否定的にとらえ，2回目の模擬授業を肯定的にとらえる傾向がみられる。このことから，指導者班の学生は1回目の模擬授業で見出した問題点を次の時間で改善することができたと感じていることがうかがえる。また，表6から，1回目の概念図では否定的な記述を含むカテゴリーが多く，2回目の概念図では肯定的な記述を含むカテゴリーが多い。このことから，指導者班の学生はある特定の観点を改善したのではなく，授業全体として改善しているととらえたと思われる。

図1と表5から，「3．授業の構成」の下位カテゴリーに「3-1. 2回の授業のつながり」があり，「3-1. 2回の授業のつながり」と「3-2. 授業の流れ」という二つの中カテゴリーの下位カテゴリーに「3-1-4, 3-2-1. 2回の授業の流れ」というカテゴリーがある。これは，同一の指導者班が2回連続で行ったことによって現れたカテゴリーであると考えられる。表1に見られるように，1回目の指導案の導入部分における「教師の働きかけ」に「1．ホワイトボードの前に集合させ，2回分の授業の流れ，今日の活動内容，今日の目標等の説明をする」と記述され，まとめの部分においては，「10. 今日の活動の総括をし，次回の授業へのつながりを説明する。」ことが記述されている。また，表2の2回目の指導案の導入部分における「教師の働きかけ」においては，「1．ホワイトボードの前に集合させ，前回の振り返り，今日の活動内容，今日の目標等の説明をする」と記述されている。よって，指導者班の学生は，模擬授業の計画段階から2回の模擬授業の連続性を意識していたと考えられ，授業後の反省においてもその良しあしが記述されたと考えられる。このことから，学生に連続して模擬授業を行わせることには，授業の連続性を意識させ，その良しあしを反省させる効果があると考えられる。

次に，運動指導の知識の理解という観点から考察する。図1と表5から，「3．授業の構成」の下位カテゴリーに「3-4. 技術指導の構成」があり，その下位カテゴリーに「3-4-1. 連係プレー」「3-4-2. 個人スキル」「3-4-3. 指導の仕方」「3-4-4. グループ練習の効果」がある。図2から，「3-4-2. 個人スキル」は1回目の記述のみにみられ，「3-4-1. 連係プレー」は2回目の記述のみに見られることがわかる。表1と表2に示した指導案例にみられるように，1回目の授業は主に個人技能の向上を課題としており，2回目の授業ではグループ練習が行われている。したがって，「3-4-1. 連係プレー」と「3-4-2. 個人スキル」の出現は，指導した授業の内容に影響を受けていると思われる。

一方で，「3-4-3. 指導の仕方」という指導者の学習者との関わりの偏りに関する内容や「3-4-4. グループ練習の効果」といった学習者の活動の成果の判断は個人技能の練習とグループ練習の両方に必要とされる事柄であると思われる。しかしながら，学習者の活動の成果の判断は1回目の記述には見られず，2回目の記述のみに見られる。このことから，指導者班は2回目の模擬授業の反省では運動指導の成果について意識しているが，1回目の模擬授業の反省において，運動指導の成果について意識していないと考えられる。

しかし，1回目の模擬授業の個人技能の練習に関連するカテゴリーとして「4．授業の管理」の下位カテゴリーである「4-2. 安全管理」に含まれるカテゴリーに「4-2-2. パスの向き」というカテゴリーがある。これは，1回目の個人技能の習得において，学習者の活動の成果について検討するよりも「4-2-2. パスの向き」，すなわち，練習中に学生同士が衝突して怪我をしないように配慮されていたかといった，安全面について反省していたことがうかがえる。以上のことから，学生は，個人技能の習得と集団技能の習得を目指した指導案に基づく模擬授業では異なる課題に気づいたと考えられる。

ただし，1回目の模擬授業と2回目の模擬授業で指導の内容が異なるため，反省の違いの要因が，指導する内容の違いなのか，連続した模擬授業の効果なのか特定することはできない。

5．結　論

本研究の目的は，教育実習前の体育科目で，同一の実施者が2時間連続の授業を計画，実施することの効果と，2時間の模擬授業を通して受講生が運動の特性や運動の技能の理解を深めていく実態を考察することであった。その結果は以下のようにまとめられる。

1．指導者班の反省シートの1回目の記述は否定的に記述される傾向にあり，2回目の記述は肯定的に記述される傾向にある。このことから，模擬授業を2回連続して行うことにより，指導者班の学生は1回目の模擬授業で見出した課題を2回目の模擬授業において改善することができたという実感をもったと考えられる。

2．1回目と2回目の指導案の作成段階において授業の連続性が意識され，また，反省シートの記述を分類した概念図において，授業の連続性に関するカテゴリーが現れている。このことから，模擬授業を2回連続して行うことは，授業の連続性を意識させ，その良しあしを反省させる効果があると考えられる。

3．ソフトバレーボールの模擬授業を2回実施し，1回目に個人技能の習得，2回目に集団技能の習得をねらいとした場合，1回目の授業では指導内容と関連しながら安全の確保を意識し，2回目の授業では指導内容による学習者の活動の成果を意識したと考えられる。これは，模擬授業を複数回実施すると，各回によって意識する課題の内容が異なることを示唆している。

このように教員養成段階の大学の授業において，授業の連続性や運動の指導に関する課題などを意識しながら，授業を改善していくという実感を持たせることは重要であると思われる。近年「反省的実践家」という概念が教師の専門職性として注目を集めている。これは熟練した教師のみならず，初任の教師においても同様である。木原（2004）は「反省的実践家」の根幹をなす授業を「省察」することを「問題の発見」と「問題の解決」にわけ，初心期に期待されるのは「問題の発見」であるとしている。このことから，教員養成段階においては特に「問題の発見」を行うことができるようにすることが要請されているといってもよかろう。しかしながら，「省察」の概念は「問題の発見」と「問題の解決」からなるため，教員養成段階において育成すべき「省察」の能力は「問題の発見」を主としながらも「問題の解決」も視野に入れるべきであろう。

福ヶ迫（2007）は教育実習後の体育科目における模擬授業は，模擬授業の実施者にとって模擬授業を省察し，改善すべき課題に気づき，またそれを改善していくことに効果があるとした。また，木原（2007）は教育実習前の体育科目における模擬授業に体育授業を観察する視点を持たせ，授業の「問題の発見」をすることができるという意義を見出した。本研究の結果から，教育実習前の体育科目における模擬授業においても，指導者班の学生は，自らの模擬授業に関する「問題の発見」をしており，また，ある程度の「問題の解決」を行うことができることが示された。よって，教育実習前の体育科目においても「問題の発見」を行うことを目標としつつ，「問題の解決」を行うことができるような模擬授業の方法が検討されるべきであろう。

今後の課題は，本研究では，「問題の解決」を，学生が自らの模擬授業を肯定的にとらえたか否定的にとらえたかという，学生の意識から推察したことにとどまっている。よって，実際にどのような「問題」について「解決」出来たのかを検討する必要があると考えられる。また，初等教育教員養成コースにおける体育科目の受講者数の現状から，全員に連続して模擬授業を行わせることは困難な状況にある。今後，このような制度上の問題点をいかに解決していくかが課題になってくるだろう。

6．引用・参考文献

1）福ヶ迫善彦・坂田利弘（2007）「授業省察力を育成する模擬授業の効果に関する方法論的検討」『愛知教育大学保健体育講座研究紀要』第32巻　pp.33-42.

2）長谷川悦示・岡出美則・高橋健夫・荻原武久・米村耕平・松本奈緒（2003）「筑波大学における体育教師教育カリキュラム及び指導法の検討：『体育授業理論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』の授業展開」『筑波大学体育科学系紀要』第26巻　pp.69-85.

3）川喜田二郎（1967）『発想法』中央公論社
4）木原成一郎・村井　潤・坂田行平・松田泰定（2007）「教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究」『広島大学大学院教育学研究科紀要　第一部　学習開発関連領域』第56巻　pp.85-91.
5）木原俊行（2004）『授業研究と教師の成長』日本文教出版
6）高橋哲郎・野嶋栄一郎（1987）「教育実習事前学習プログラムの開発とマイクロティーチングの改善に関する研究」『日本教育工学雑誌』第11巻　pp.57-70.
7）松田泰定・木原成一郎・村井　潤・坂田行平（2008）「運動指導の力量形成を視点とした模擬授業の検討（その2）」『学校教育実践学研究』第14巻　pp.13-19.